

MY FRIENDS, WE ARE...!?

新学期を迎えてから1か月あまりがすぎて、そろそろみんな新しい生活や講義にも慣れてきたんじゃないかな？ちょっと気持ちに余裕が出てきて、まわりのことがいろいろと見えてくる頃だと思う。そんなとき、いつも何気なく接している友達の存在について、改めて見つめ直してみる人が多いみたい。そこで、今回のテーマはずばり『友達』。みんなにきいた『友達の定義』も踏まえながら、一緒に考えていくよ。

ともだち【友達】 親しく交わっている人。友人。友。(集英社・国語辞典より抜粋)

君には『友達』と呼べる人が何人ぐらいいるかな？きっとその数はみんな違ってくだらうし、ひょっとしたら「友達なんていないよ」と答える人だっているかもしれない。それは、心の中にある「どんな人を友達と呼ぶか」という定義が個人個人でバラバラだからだよ。自分が友達だと思っている人が、自分のことを友達だと思ってくれているかどうかは、本人にきいてみなきゃ分からない。『友達』って実はすごく不安定な存在で、ひとつの定義に納まりきるものじゃないんだと思う。

みんなは、どんな人を『友達』って呼ぶのかな？何人かの人に、自分自身の『友達の定義』とは何かきいてみたよ。

友達の定義

- お互いに毒舌になっても話ができる人。
本音でトークできる人。
(人文学部2年 S・Sくん)
- 悩みとか何でも打ち明けられる人。
(教育学部3年 A・Sさん)
- 自分のいけないところを注意してくれる人。信頼できるし、尊敬もできる人。
(人文学部3年 R・Yさん)
- 自分を高めてくれる人。
そして自分も高めてあげられる人。
あとは、わがままな自分に
あわせてくれる人。
(情報学部2年 M・Tくん)
- 辞書どおりなんじゃない？
あとは、何か物くれる人かな。そんなヤツいないけど・・・。
これ、ほんとに載せるの？
(理学部2年 T・Tくん)
- そいつがいないと寂しいなあって思える人。ちょっと弱ってる自分を見せてもいいと思える人。
(教育学部2年 T・Aくん)
- 心を許せるやつ。一緒に騒げて、かつ遠慮なくしゃべれて、自分と馬が合うやつ。
(工学部2年 S・Mくん)
- 身の上の話ができる人。
(教育学部2年 M・Oさん)
- ねたまない。人のことを心から喜べるやつ。(理学部2年 A・Nくん)

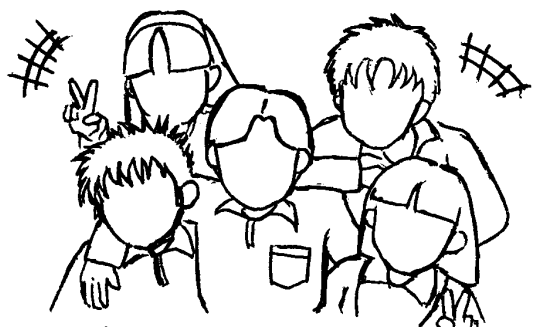
でも、こうやってストレートにきいてみると、みんな答えるのにとっても悩む。自分の中に友達とそうでない人とを分ける境界線(=定義)みたいなものは存在しているんだけど、言葉にするとなると、そこまでハッキリはしていないみたい。それに、自分が友達だと思う人が、今あげた定義を満たしているかどうかといえ、首を傾げて考え込んでしまう。

確かに、友達ができるときに、自分の定義といちいち照らし合わせて選ぶような人はいない。どちらかと言えば、みんな直感的に『この人となら友達になれそう!』を判断するよね。結局のところ、初めて出会ったときから『友達』になる人と、『ただの知り合い』で終わる人はある程度まで決まっていると思う。何かその人の持つ空気のようなものを読み取って、それが自分に合ったものだ、自然に近づいて話をして、いつのまにか友達になる。言葉に出せるような『友達の定義』は、その後で二次的に生まれるものなのかもしれないし、実際、友達を作ろうと思ったって、そんなに思い通りにはいかない。

だとしたら、『友達がいる』ってスゴイことなんだよ!!
だって、みんながみんな友達になれるわけじゃないよね。世界には何十億人という人間がいて、単なるスレ違いどころか、全く出会わないような人もいる。出会って話をするのなんて、ほんの一握りの人たちだけだよ。その一握りの中に、自分の『友達になる定義、あるいは直感』を満たしてくれる人がいるとは限らない。『友達』と呼べる人に出会うということは、実はほとんど奇跡的な確率なんだ。



大学って、全国からいろんな人が集まってくるから、友達ぐらい簡単に見つけられるような気がして、つい軽く考えてしまう。だけど、実際にはものすごい偶然が重なって(もちろん、そこには自分の積極性という偶然も含まれる)、ようやくひとりの友達に出会えるんだ。だって、同じ大学の中ですら、全然会わない人はいるんだもんね。



We are friends!!

みんなは一生のうちで何回『友達に出会う』という奇跡を体験するんだろう? たぶん、それは日常の中に当たり前な顔をして紛れ込んでくるんだろう。そして、君もそれを『あたりまえのこと』として、過ごしてしまうのかもしれない。

それはそれでいいと思う。

でも、ふと自分がひとりで生きているような気がしたときには考えてみよう。自分が友達に囲まれて幸せだと思えるときは考えてみよう。何か大きな壁にぶちあたってくじけそうなきときは考えてみよう。そして、今このページを読んで、考えてみよう。

君の友達は、ほんの一寸でも時の運がズレていたら隣にいなかったかもしれない。別の人と楽しそうに歩いて、自分とは言葉も交わさずにスレ違っていたかもしれない。

My Friends, we are ... MIRACLE!!

※みなさんのご意見・ご感想をお待ちしています。アンケート用紙に書いて送ってね!!